

小川直宏先生の定年退職にあたって

日本大学経済学部長 小 椰 治 宣

小川先生は、昭和54年当時の人口研究所長の黒田俊夫教授のご推薦により、年度の途中ででしたが、12月1日に本学部に助教授として着任されました。そして、定年を迎える平成26年10月までのおおよそ35年余り、本学の専任教員として、また人口研究所の主要なスタッフとして本学発展のために多岐に亘ってご尽力を賜りました。長い間、本当にありがとうございました。

ここで改めて、小川先生の経歴と職歴について簡単に紹介しておきましょう。小川先生は、昭和19年、静岡県のお生れ。都内の中学・高校を卒業後、早稲田大学第一政経学部経済学科に入学され、昭和43年3月に同学科を卒業されました。同年9月に、米国ハワイ州立ハワイ大学大学院経済研究科修士課程に進学、昭和45年5月に修了され、さらに同年9月に同大学院同研究科博士課程に進まれ、昭和50年3月に経済学博士（ハワイ大学）の学位を取得され、同年5月に博士課程を修了されました。

大学院在籍中に、ハワイ大学大学院の助手として「経済学入門」という科目をご担当されたり、東西センター人口研究所でリサーチ・アシスタントをされたりし、少しずつ研究者の道をスタートされました。大学院修了後は、ハワイ大学経済学部の講師（経済学原論担当）、東西センター人口研究所の助教授、国際連合アジア太平洋経済社会委員会・人口社会部研究員を歴任されました。そして、本学には昭和54年12月に助教授として着任され、59年4月に教授に昇格されました。その後、平成17年4月から日本大学大学院総合科学研究科へ勤務替えとなりましたが、平成21年4月に再び本学部に戻って来られ、定年を迎えられました。また、この間、日本大学人口研究所のスタッフとして多くの研究業績を世界に発信されています。とりわけ、平成6年度より人口研究所次長、そして平成19年度からは同所長として研究所の運営にご尽力されました。小川先生は、研究所に早朝から深夜まで詰め、研究に専心されているお姿が極めて印象的です。また、小川先生の講義「人口経済論」は、学生達にもたいへん人気があり、教室は多くの受講生で満員になるほどでした。

定年まで、学部の授業では人口経済論の他に、economics（英）、専門研究（一）・（二）、卒業論文、基礎研究を、また大学院では人口経済論Ⅰ・Ⅱをご担当いただきました。研究面では「研究業績一覧」に記されておりますように、著書、論文など多数執筆されるとともに、本学の人口研究所の発展に多大な貢献をされました。学内での行政活動では、すでに申し上げましたとおり、在職期間中、人口研究所次長、人口研究所長を歴任されています。さらに、学会活動においては、小川先生は、日本人口学会、アメリカ人口学会、日本年金学会、公益財団法人統計情報研究開発センター、世界保健機関（WHO）（海外）など多くの学会等に所属されています。また、アジア人口学会では理事、国際人口学会（海外）では専門委員を務められています。

ところで、少し古いお話ですが、小川先生が着任された当時は、ケインズ経済学の再評価に関する研究が盛んな頃であり、なかでもA.レイヨンフーヴッド氏（当時カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授）はケインズ再評価の第一人者として注目の学者でした。昭和55年1月に、レイヨンフーヴッド氏が本学の客員教授として来校され、5回の講演会が開催されることになりましたが、小川先生には、着任早々

(ii)

でしたが、語学が堪能であるということで研究分野が異なるにも拘わらず、講演の通訳をお願いし、たいへんご苦勞をお掛けした次第です。小川先生には、本当に様々な形でご尽力を賜りました。これからも学部・大学に対する忌憚のないご意見やアドバイスを頂ければと思っております。小川先生の今後ますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げて、巻頭の辞といたします。